



2006.6.12発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人)横浜の列サビネットワーク

第9号

Vol.3 No.1

	トピックス	今、生活保護制度は... - 「適正化」と「切り捨て」 -	1
	実践報告	夢がかない、うつ家族会・Heart Beat ができました ...	2
	SSTの現場から	YMSNのSST研修会って? 10年間で200人が学ぶ ..	5
	当事者活動	笑顔で来て、笑顔で帰る(緑区生活支援センター).....	7
	就労の取り組み	「スワンベーカーリー県立大学駅前店」を訪ねて	9
		予定・報告	11

今、生活保護制度は

「格差社会」の中で進む生活保護の適正化と切り捨てー

生活保護の受給世帯が昨年から、約100万2千世帯となり制度発足以来初めて100万世帯を超えた。この背景には景気の悪化や高齢者が増えていることが挙げられ、その結果低所得層が拡大している状況がある。

厚生労働省（以下厚労省と省略す）は2006年3月30日付で「生活保護行政を適正に運営するための手引きについて」の通達を出している。さらに5月15日には「全国約1200箇所の福祉事務所長が一堂に会する初めての会議を都内で開き『地域の特色をつかんで適正化を進めて欲しい』と要請している」（5/22付福祉新聞）。保護費の引き締め策をさらに地方と国が一体となって進めることを強調した形である。

この適正化は、保護費の抑制のために生保受給者数を抑制する目的がある。「他の社会保障費の削減は国民の反発を招きやすいが生活保護費の削減は抵抗が少ない」からという指摘もある。既に数年前から申請書を渡さない・また資産調査のみならず扶養義務者の扶養についても厳しい指導が行われているが、それがさらに促進されることになる。公的扶助全国連絡会の関係者の話では、「高齢者にとってはとついだ娘のところまで調査が及ぶことが耐えがたく、生活保護水準の生活でも受給しにくい状況になっている」という。保護基準にあっても申請自体が困難にされているのである。

一方で生活保護基準そのものも引き下げられようとしている。「年明け早々の今年1月12日付け毎日新聞は『生活保護の基準額/引き下げ検討へ /厚労省』のような見出しで、厚労省が生活保護基準の更なる切り下げの検討を始めたと報じ、利用者をはじめとする関係者に衝撃が走った。それも、生活扶助基準が基礎年金の給付水準より高い場合があるのがおかしいというのが検討の理由にあげられていた」（花園大学・吉永純 公的扶助研究201号14頁引用）さらに吉永氏の指摘によると2003年に「生活扶助基準は概ね妥当とされたばかり」で、「生活扶助基準が高いのか、基礎年金の水準が低いのか、中身の検討抜き」で引き下げが行われようとしていることになる。国民年金は40年間かけても満額支給額が6万7千という低さである。この基礎年金の額でどう生活ができるだろうか？ むしろこの基礎年金の低さの方が問題である。

精神障がい者も単身では障がい年金だけでは生活できず、生活保護受給者は少なくない。生活保護を受給できたことで病状の安定が得られる人も多い、また保護基準の切り下げは障がい特性に加えて経済的な原因で社会的孤立の状況に陥りやすく、回復を遅らせたり、悪化させたりということも考えられる。憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とは何か？ 金沢誠一氏の指摘のように「最低生活とは『自尊心をもちうるか』『人前に出て恥をかかずにいられるか』『社会生活に参加しているか』といった生活の機能を達成できるものでなければならない」（労働クォーターNO59）。格差社会の中で増加する低所得層や貧困層、このみえにくい問題にも意識的に関心を払い支援者として対応を考えていかなければならないのではないだろうか？

森川充子 / YMSN

実践報告

夢がない、うつ家族の会・Heart Beatができました

砂田 玖二江さんのレポート

今年3月11日YMSN主催で「うつ家族支援セミナー」を開催した。うつ家族の方を対象にしたセミナーで、会場には30人の参加者が集まっていた。中には「昨日パンフレットを見つけ、突然ですが参加してよいですか？」と1時間前に会場に電話で問い合わせる方もいらした。司会も進行も家族の方で進められ、手作りの会の良さが随所に感じられるセミナーだった。参加者からも「またこのような会を企画してほしい」との声が上がった(3ページ参照)。当日の様子をこの会の提案者である砂田さんに記してもらった。

念願かなって、3月11日に1回目のうつ家族の会・Heart Beat(ハートビート)を開く事ができました。私自身もうつで5年ほど通院していましたが、その間に夫も過労から、うつを再発してしまいました。

何カ月かは、食事以外はずっと寝ている状態が続き、その後は、自分自身に腹をたて、自暴自棄になり、いらいらして物に当たったり、私に突っかかって来たり、時には子供のように甘えてきたり、自殺したいと言いつつ出したりで、健康な時の夫とはまるで別人のようでした。

私の対応に何か悪いところがあるのか？と自分を責めたり、なんで大人なのにしっかりできないのか？と夫を責めたり、私自身の心の揺れも、日々大きくなっていきました。

その頃、中村敬先生の「家族が、過干渉、過保護に接するとうつの回復は遠のく」という話を聞く機会があり、気持ちは一日も早く治って貰いたいと思ってしている事が、実際には、足を引っ張っている事もあり得るという事を改めて知り、家族もきちんとした知識がないと無駄な時間を費やすだけではないか、と痛感しました。



その後「よそのお宅では皆さんどう接しているんでしょう？」とカウンセラーである舩松克代先生^{へのまつ}に尋ねた時に、医者もカウンセラーもうつの経験がない人が殆どだから、実際にうつと向き合っている家族同士で勉強しあって、ゆくゆくはうつのプロになっていくのが、一番いいのではないかとアドバイスを頂きました。

そんな事ができるのか？と半信半疑でしたが、当日は、30名以上の方が来てくださいました。舩松先生のお話を聞き入るようにしていた方が多かったのが印象に残っています。私は、うつ家族の会・Heart Beatの必要性を自分の体験からお

話したのですが、一番前の席に座っていらした若いご夫婦が、頷きながら、特に奥様が時折涙をためながら、じっと聞いて下さるのを拝見して、そうか、うちだけではなかったんだ、と「同土」という気持ちを強く持ちました。

終わってから、ここに来るのは主人に内緒なので、次回のお知らせは、友人宛に送って欲しい、とわざわざ戻っていらした方がいらっやって、こうやって気を使っているご家族のためにも、息の長い会にしたいと強く思いました。

今後は、家族自身のメンタルケアを中心に、経済的な悩みの解消策、家族のストレス発散の機会作り、ほっと息のつける場所作り等を企画し、同時にホームページも立ち上げて、今どうしたらいいかと悩んでいる家族の方に一人でも多く参加して欲しいと思っています。

一人で考えたり、悩んだりしても、堂々巡りになってしまい、先が見えません。プロの方の力を



借りて、家族自身も倒れてしまわないように、自分の生活も大切にしたい、うつご本人との関わり合い方を、次回セミナー（4ページ参照）も汐田ヘルスクリニック所長野末浩之先生(精神科医師)のお話を伺った後、ぜひ皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。

会場の参加者から色々な声を聞きました。アンケートの声を織り交ぜて紹介します。

- ・ 私もうつについて理解ができずあちこちぶつかっています。悩んでいる事を交換できると良いと思いました。
- ・ 今まで、情報交換する場もなかったので色々な話を聞くことができ良かったです。
- ・ うつの家族を支えながら仕事もしていると、自分自身も辛くなってきます。家族に焦点を当てたセミナーが良かったです。
- ・ 同じ悩みを持つ仲間が、語り合うだけでも楽になれると思います。また機会を作ってください。
- ・ うつの家族を抱える友だちが今日の会に参加でき、やっと一歩外へ出ることができました。

Heart Beat

家族としてうつとどう向き合うのか

★ 専門家からうつについて学びましょう

★ 家族の声に共感しませんか?

うつについて話題になることが多くなりました。YMSN では今年 3 月に引き続き、「第 2 回うつ家族支援セミナー」を企画しました。この機会にご家族がうつについて学ばれるとよいと思います。一人で抱え込まないためにも家族の話を聞く、この機会をきっかけにご家族の方の気持ちが楽になればよいと考えています。お気軽にご参加ください。

なお、会場の都合がありますので、お申し込みは下記の申込欄にご記入の上、このまま、FAX (045-841-2189) でお送りいただくか、メール (ymasn@forest-1.com) でお申し込みください。

- 日時 : 2006年7月9日(日) Pm2:00~Pm4:00
- 場所 : ウィリング横浜5階501研修室 横浜市営地下鉄・京浜急行「上大岡駅」オフィスタワー(徒歩3分)
- 参加費 : 500円(会場代として) 定員 : 60人(定員になり次第締め切ります)
- 内容 : 「家族としてうつとどう向き合うのか」
 - [提言] うつを抱える家族から
 - [助言] 専門家からのアドバイス・うつへの正しい理解

(汐田ヘルスクリニック所長 精神科医師 野末浩之)

.....

今年(2006年)3月、約30人の方々を迎えて、第1回うつの家族支援セミナー「ハートビート」を開催しました。最初に病院でうつの方の治療や相談に当たっている臨床心理士の舐松克代氏からうつ病についてやその対応について話を聞きました。次にうつの方から「家族としてうつとどう向き合うのか」を話していただきました。会場の方からは、「うつのことを気軽に話せる場がなかった。家族は大変なんです」「妻という立場で夫君を支えている話を聞きましたが、息子を支えてくれる義娘に義母としてどう対応してよいのでしょうか? また、うつの息子にどう接したらよいのでしょうか?」「医師から入院を勧められましたが、本人は入院には抵抗があるようです。家族としてどう対応すればよいのでしょうか? 入院することは良いことなのでしょうか?」「...」様々な声に会場全体で考えました。

どなたでもご自由にご参加ください。但し、人数把握のために下記の要領でお申し込みください。お申し込みは、下記申込書にご記入の上、FAX (045-841-2189) かメール (ymasn@forest-1.com) でご連絡ください。

.....

セミナーを申し込みます。

お名前: _____

所属(無記入でもok): _____

ご連絡先(本セミナーのご連絡以外には使用しません): _____

SSTの現場から

YMSNのSST研修会って？

10年間で200人が学ぶー

様々な機関のSST（生活技能訓練）の取り組みを取材してきましたが、今回はYMSNのSST研修会を紹介します。今まで取材した機関の方たちも、この研修会でリーダーとしての技術を磨き、新しい技術を取り入れ、迷っている事を解消する場として利用してくれています。（下記に詳細）この研修会の歴史は長く、もともと1990年に東大でSSTの研修を受けた数人が、現場での実践を深める目的で集まり、横浜で勉強会を始めたのがきっかけです。

その後1995年1月に「SSTアセスメント研究会」として正式に発足しました。現在の定例化したオープンな研修会がこのときから始まりました。以後、欠かさことなく続けた研修会ですから、もう10年余になります。その間、横浜メンタルサービスネットワークの設立に伴い、「SSTアセスメント研究会」が発展的に解散し、現在の「YMSNのSST研修会」になりました。10年間この研修会で学んだ方は約200人、現在登録している方は約130人になります。毎月参加される方は60人余。参加人数が増えるに従い、講師の先生の協力が重要になってきますが、この研修会参加者から普及協会認定講師も生まれてい

き、現在6人の講師（認定講師5人）の協力を得ています。今年度4月からは、地域で活動している支援者、就労支援をしている人、大学院生の参加が目立ち、新たに20人が参加しています。（毎年新しい参加者が増えます）

今後この研修会でも参加者のニーズを聞きながら、地域でSSTを普及する機関として意味ある研修会作りをしていくつもりです。以下、今年度研修会の企画を担当講師からのコメントでご案内します。
鈴木弘美 / YMSN

日時	毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) Pm. 7:00~9:00
場所	横浜市総合保健医療センター 講堂 研修室
全体会	「事例から学ぶSST」～アセスメントに焦点を当てたSST～
分科会	A. リーダー体験初級コース 1 B. リーダー体験初級コース 2 C. リーダー体験経験者コース D. ベラック初級コース E. スキルアップコース

全体会（担当：加瀬昭彦）

今年度から全体会では、認定講師によるデモンストレーション（通称：お手本SST）を行なっています。認定講師の先生方もいろいろな現場をお持ちなのでさまざまな工夫を見ることができます。また、各講師の個性もうかがえるのではない

かと期待しています。1回目は私が外来（デイケア）で急速に病状悪化した患者さんへの面接をSSTを用いながら行なった様子をデモンストレーションしました。2回目は高橋先生に港南区生活支援センターで行なっているセッションの様子を

披露していただいています。今後の展開が楽しみです。

リーダー体験初級コース1（担当：高橋恵）

SSTに初めて触れる方やSSTリーダー体験の全くない方を対象にした、SST入門コースです。SSTの目的やSSTセッションの進め方(基本訓練モデル)を理解し、実施できるようにすることを目標にしています。1回目はSSTの基本である基本訓練モデルのセッションの進め方として、認定講師によるデモンストレーションを見学していただきました。続く2-3回は、基本訓練モデルのSSTのやり方を台本にしたものを使い、リーダー役やコリーダー役を経験していただき、セッションの進め方を理解していただきます。その後は各参加者の関与している場面でのSSTを行なうという場面設定でリーダーを体験していただきます。

リーダー体験初級コース2（担当：片柳光昭）

このグループは、SSTのリーダー、コリーダーを始めて間もない方、ご自分の現場でSSTを行っており、近いうちに自分も実施する予定のある方などを対象にしたグループです。このグループに参加することで得られる成果は、セッション中のリーダー、コリーダーの動きを体得できること、加えてそれらの動きに関する裏付けについても理解が深まるようになることです。これらの成果を得ていくために、このグループではリーダー体験、コリーダー体験を行っていきます。このグループが終わる頃には、安心して運営できるリーダー、コリーダーになることをめざしています。

リーダー体験経験者コース（担当：野末浩之）

このコースでは、「場面カード」を用いてSSTセッションを行うので、誰もがリーダーを体験できます。ちなみに5月は「職場の休憩時間中に、周りの人の吸うたばこの煙が辛いので、そのこと

を伝える」という場面で練習しました。SSTリーダーって、見ているときは簡単そうでも、実際に前に出てみると頭が真っ白、となってしまうものです。その経験を味わうだけでも、意味はあると思います。少人数で、のんびりやっております。

ベラック初級クラス（担当：佐藤幸江）

このクラスではベラック博士らによるSSTを素材に、前期はレクチャーとそれを踏まえた実践ワーク(演習)、後期は実際のセッション運営に必要なスキルの体験学習を中心に進めています。SSTを形成している理論を丁寧に見直し、SSTのリーダーとしてだけでなく、日々の臨床実践に役立つ内容にするよう心がけています。短い時間の中で、参加者のみなさんがものすごい集中力で取り組んでくださっていてエキサイティングで充実した雰囲気クラスです。

スキルアップクラス（担当：舩松克代）

このクラスは初級を修了した方を対象にしています。初級で習った形式を実際行ってみただけ、うまくいかないという方は多いと思います。疾患をどう見立てて、能力をどのように評価し、その情報に基づき、SSTの実施方法も多少工夫や応用が必要になります。そのエッセンスをこのクラスで学びます。

当面の予定としては以下の疾患についての方法を学ぶ予定です。

- 1) 知的障害が合併している
 - 2) 発達障害特に自閉症スペクトラムのケース
- 皆さんの希望も取り入れて今後の内容は検討する予定です。

笑顔で来て、笑顔で帰る

～ 緑区生活支援センターを訪ねて～

去る4月28日、横浜市緑区生活支援センターへ行ってきました。

ここは、今年1月4日に開所したばかりで、財団法人・紫雲会がその運営を委託されており、毎月第1火曜日の休館日を除いては、土日も含めて午前9時から午後9時まで開館しています。具体的には夕食・入浴・洗濯・パソコンのインターネットのサービスがあります。静養室もあり、男性専用が「カエデの間」、女性専用が「シランの間」と



名付けられています。なぜこのような名になったかということ、カエデとシランは緑区の花木であるところからだそうです。施設として目立ったことは、リフレッシュコーナーとして喫煙室が独立して隔離されており、そこでは空調設備がなく、煙草の煙をほかの部屋に入れられない様になっています。そのほかのサービスとしては、職員による日常生活の相談の他、医師を招いて毎月4回程度相談を行っている、といったところでしょうか。

利用者についてですが、その多くがどこにも所

属していない30代～50代の家族との同居者です。但し、利用者には常に「自分で考え、自分で決定する」という主体性を持たせる為、利用する際には登録カードをつくって、カードの5種類のデザインのうちどれか一つを選んでもらうようにしています。利用者の傾向として、緑区在住の方が一番多く、都築区・青葉区・旭区・港北区と交通の便の良い所から通うメンバーが多いようです。

普段の食事サービスの利用者は1日平均で8人～13人、入浴サービスが4人、インターネットサービスが月40人位となっています。ここで一つ目についたのは、食事の際は食器を自分で洗い、入浴の際は浴槽を利用後に自分で洗ってもらっている事です。この辺りも自主性・主体性を強調していることのあらわれでしょうか。

この緑区生活支援センターでは、定期的に様々なイベントが催されています。TVドラマや映画の上映会、「華麗なる昼食会」と銘打ったカレーにこだわる昼食会、「スポーツ根性クラブ」と銘打ったスポーツレク、家族会の方を招いて行われる手芸会、そして自分にあった職場を探せるようになる就労援助講座等が行われています。このようなイベントを通じて、自分を取り巻く環境を見つめさせ、今の生活状況や対人関係をしっかり認識させ、問題があれば生活相談を行っているのです。これもやはり、自分で考え、自分で決定するという主体性を強調している事の表れでしょうか。

所長の家里浩さんにお話を伺ったところ、「現在の生活支援センターには約200名の登録者がいますが、とにかくメンバーの期待にそえる様にて

きる事から一つ一つやっていきたい。その為には、センター内での喧嘩、金銭の貸し借り、賭博行為、勧誘活動を禁止してメンバー間のトラブル防止に努めている。こつこつとやっていく。但し目標を高く持ち過ぎては駄目。それもこれも、利用者のみんなが笑顔で来て、笑顔で帰れるように、そして良い雰囲気を与える事で一人でも多くの方が健やかに過ごせるようにをモットーとしているからです。これからいろいろなイベントを通して、関係機関、地域の方々とまた家族会などと一丸となって交流を深めていきたいです」とおっしゃっ

ていました。

自主性と主体性を強調したその延長線上には、一人一人が責任を持って楽しむ事で初めて笑顔が得られるのだという職員さんの取り計らいがあるということに気付きました。

最後にこの緑区生活支援センターのある建物は、1階から3階まで身体・知的・精神のいわゆる三障がい全ての利用施設をまかなっているとのこと。これにより当事者の障がいに対する認識を深める事にこの施設がどれだけ貢献しているかがわかりました。 多良 剛 / 青いとり作業所

医療福祉関係者対象セミナー

メンタルヘルス予防講座のご案内

医療福祉の現場を職場として働いているスタッフの抱えるストレスに焦点を当てた、メンタルヘルス講座を企画しました。今回は、特に自分自身のストレス処理についてご自身で測っていただき、自分に合うストレス処理の方法や考え方を見つける内容にしました。ご興味のある方はご参加ください。

日程： 2006年8月20日(日)

時間： Am 10:00 ~ Pm 3:00

場所： ウィリング横浜 会議室 (オフィスタワー 6階)

横浜市営地下鉄・京浜急行「上大岡駅」オフィスタワー (徒歩3分)

講師： 水野康弘(帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科 臨床心理士)

費用： 5,000円(当日会場でお支払いください)

内容： 「メンタルヘルス予防講座」

自分のストレスを見分けよう

自分にあったストレス対処法を見つけよう

(認知療法・アサーションプログラム などを紹介します)

定員： 15人(定員になり次第締め切ります)

参加人数が10人に満たない場合は申し訳ありませんが、会を延期させていただく場合があります。

締め切り： 8月14日(月)

申し込み： 横浜メンタルサービスネットワーク (FAX/045-841-2179 e-mail/ymsn@forest-1.com)

就労の取り組み

「スワンベーカーリー 県立大学駅前店」を訪ねて 香ばしいパンと温かいスタッフに囲まれて生き活きと働く姿に感動！ -



5月25日(水)、京浜急行の県立大学駅前にある「スワンベーカーリー」(駅の改札を出てすぐ左)を見学させて頂きました。一歩中へ入ると明るく清潔な店内、笑顔のスタッフに迎えられました。

最初に千濱^{ちばま}利幸店長さんよりお話を伺いました。

「この店を作るきっかけは、京浜急行グループの中で障がい者、特に知的障がい者を雇用する京急ウィズという会社があり、その中で主な仕事が駅の清掃・駐輪場の管理・クリーニングなど、もっと障がい者の方々が表に出てくる仕事をとノーマライゼーションの精神をかんがみ、普段いつものようにそこに居るという環境を作ろうということで、他の就労の機会・可能性の創出・一生懸命働く姿を見てもらおうというコンセプトの中で、ヤマト運輸財団のスワンベーカーリーを知りフランチャイズをさせて頂くことになりました。生地は高木ベーカーリー(アンデルセン)さんに提供して頂きました」と千濱さんは言います。

さらに、「何とか皆がんばって仕事をしています。今3カ月半位ですが充分“戦力”になっています。精神の障がいの方を雇用するのは初めてだったので最初は本当に心配していたのですが、だんだん

うちとけ、一緒に販売をしている女性スタッフの配慮もあり調子悪そうな気配も何となく判るようになってきました。我々スタッフも日々成長しているのだと感じています」

また「他の職種の会社に障がい者の方たちとどのように仕事をしていったらよいか解らないという声があるようですが」とのこちらの問いかけには、「身構えるのではなく受け入れる」ことでしょね」と答えて下さいました。

そして「女性スタッフの方々の細かい配慮がすごいと思います。日々あることを小さいうちに消化すればしこりが残らずやっていけると思いますが」とのことでした。

そしてマネージャーの加藤久博さんに、今後の方針を伺うと「一番は会社全体として一度入ったからには長く安定して働いていただけるよう全力でサポートしていきたい。関係機関(YMSNはジョブコーチ・就労援助で関わる)の方達とも協力していきたい。今後の課題としてスタッフ教育を会社として何かやらなければいけないと考えています」今迄の印象を伺うと「目標が明確でそれに向かって一生懸命やっているところが、外から来た方にも評価されています。職場にクローバーさん(お店では障がいのあるスタッフをこう呼んでいるそうです。全体で34名、社員4名・障がい者8名(内精神2名)・他パートさんが就労)がここ1カ月位で定着してきたと感じています」とのことでした。

千濱店長は「どうしてもストレスがたまってしまおうと思いますので、そういうところを支援して頂ければと思います」と話しています。

今後の目標を伺うと「パン屋として地域に必要とされるお店になりたい。そうすることで障がい者を含め皆さんの雇用を確保したい」とうれしなお話をしていただきました。

次に従業員のIさんにお話を伺いました。

「最初は2カ月位何もないところから始めて、紙の計算機でレジの練習をしたり、お客さんや店員になっての練習など戸惑いながらやりましたが、スタッフや職員の方が親切にフォローしてくださって、悩みごとがあれば聞いてもらったりしてやってきました。皆さんすごく優しく働きやすいです。レジ専門で慣れてきましたが、毎月新作が出るのでその時は戸惑うこともあります」

良かった事はと伺うと、「お客様と接するようになって“美味しいよ”と言われたり、毎日来てくださるお客様があったり、一緒に働いている仲間とコミュニケーションがとれるところが嬉しいです。働く前にはなかった充実感があります」とのことです。

これからの夢を伺うと「夢は今はまだ店内だけで売るのが精一杯ですが、スワン号(移動販売車)で販売出来たらいいなと思っています」と笑顔でお話しして下さいました。

お店の一角にあるカウンターでパンとコーヒーを頂きました。その間にも焼きたてのパンが次から次に出来、その都度小さなカゴに入った試食用のパンを私達を含め店内にいる方に勧めて頂き、サービスの良さに頭が下がりました。もちろんパンとコーヒーも大変美味しかったです！

最後に従業員の高塚淳さんにお話を伺いました。

「最初は何でも出来ると自信過剰みたいな所があったかなと思います。今は自分はそうでもないんじゃないかと思います。出来ること・出来ないことが解ってきました」

これから働く方へ向けてのメッセージを伺うと「まずは待つこと」との答え。意味は「仕事に就く前の段階で、病状が安定しないのに仕事をするともたまたま体調を崩してしまうと思うので。自分も退



院してすぐ働きたいと言ったらとんでもないと言われて、今はそうだな。あの時は無理だったなと思います。徳川家康のように“鳴くまで待つ”ということです」ということでした。

今回、見学させていただいた感想はこの記事の副題に書きました。それから障がいのある方とない方が一緒に就労し、地域に自然に溶け込んでいくところがとても良い感じでした。このお店のようにスタッフの理解とサポート(関係機関含め)があり仕事出来るような職場がもっと増えていくことを願います。

皆さんの活躍を陰ながら応援させていただきます。

この記事を読んで行きたい、もっとスワンベーカーリーのことを知りたいと思った方はホームページ(<http://www.swanbakery.jp/>)でも見ることが出来ます。

長嶋悦子 / Y M S N

研修会のお知らせ

精神保健福祉研修会 参加費 1回 500円 (年間4,000円)

日時： 毎月第2金曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~8:30

場所： ひまわりの郷(上大岡) 4階会議室

内容： 2006年度 計画中

SST(生活技能訓練)研修会 参加費 1回 1,000円 (年間7,000円)

日時： 毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00

場所： 横浜市総合保健医療センター 講堂 研修室

全体会： 「事例から学ぶSST」～アセスメントに焦点を当てたSST～

分科会： A.リーダー体験初級コース B.リーダー体験経験者コース C.ベラック初級コース D.スキルアップコース

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3木曜日(原則) pm. 2:00~3:00
	神奈川区生活支援センター	毎月第2土曜日 pm. 2:00~3:00
就労フォローアップミーティング	港南区生活支援センター	毎月第1土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	YMSN	OB会の開催
SST	港南区生活支援センター	毎月第3土曜日 pm. 2:00~3:00

電話相談

毎週木曜日(1回/週) 10:00~15:30

相談専用電話 045-841-8294

会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)

会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。

精神保健福祉研修会(1,000円) SST研修会(3,500円)

会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)

(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607

横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol.3 No.1

めんたるねっと2006第1号 2006年6月12日発行

年間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 武井昭代 編集代表 森川充子

〒233-0001 横浜市港南区上大岡東2-42-4

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/ymsn/>

e-mail: ymsn@forest-1.com

印刷：横浜市総合保健医療財団

精神障害者授産施設 港風舎印刷